

令和6年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 三木市立志染保育所

観点	③自尊感情を育むとともに豊かな人権感覚を養う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	○ 子ども達は、市内各所から通所している。個々にみると、甘えたい気持ちや自分の思いを受け止めてほしい子も見られる。 ○ 職員は、保育所・幼稚園・こども園での保育経験者が共に保育を行っている。これまで経験してきた保育の形態はちがっていても子どもの思いを大切にすることが同じであり、全ての保育の源となるのは、人権意識であると考え。しかし現状として、なかなか職員全員が集まって研修できるような時間が無く、一人一人の思いを語り合える場をいかに意図的に取り入れていくかが課題であった。 ○ 所内の畑だけでは場所が限られているので、地域の方の畑をお借りし、継続的に栽培物の生長が見守れるような環境作りに努めていく。 ○ 「保育を守る会」の絵本の読み聞かせをコロナ期間中は休止していたが、今年度より再開し、年間をとおして継続し積極的に行っていくことにした。
目標	○ 自分のありのままの思いを表現し合う中で、友だちの思いに気づき、自分と同じくらい友だちのことも大切に思う気持ちを養うと共に、自己肯定感を育み、安心感を持って、のびのびと生活する。 ○ 栽培物や飼育物の世話を継続して行い、感じたことを友だちと確かめ合ったり深め合ったりする中で、命の尊さに気付く。 ○ いろいろな人に絵本を読んでもらうことで、人とのふれあいを楽しみ、あたたかさや安心感を感じながら、豊かな感性を育てていく。
目標達成に向けた具体的な取組内容	○ 職員の人権意識を高めるために、園内外の研修会に積極的に参加し、研修した内容を職員間に伝達する時間を積極的にもち。 ○ 今年度新たに、乳児会議・幼児会議・支援員会議、主任会議を設け、継続的に開催することで、保育者が同じ方向性を持ち、子どもや保育者一人一人の思いを大切にしたい保育を行えるようにしていく。 ○ 友だちとの思いを受け止め合う時間を大切に、クラスの話題にしたり、みんなで話し合ったりする時間を大切にしていく。 ○ 苗選びから収穫まで子ども達が主体的に世話ができる環境を整え、生長する命に気付けるようにしていく。 ○ 人のあたたかさを感じながら豊かな思いを育ていけるように、保護者による絵本の読み聞かせを毎月2回程度行うと共に、いろいろな人に継続的に絵本を読んでもらえるように読み聞かせの募集を続けていく。
成果	○ 必要に応じて各小会議を随時行う中で、例えば、支援会議の中で「子どもの思いの受け止めや愛着形成への理解を深めたい」という思いが保育者から出てきたことから人権研修へとつなげ、全保育者で再度学び合いの時間を持つなど、小会議と全体会議をつなぎあわせることで、保育者の主体的な学びの機会となった。また、保育者が主体的に学び、具体的な支援を見出すことで、子どもの人権を大切にしたい保育へとつながっている。 ○ さつま芋畑の観察や季節の花や野菜の栽培など、子どもたちが主体となって行える環境を意識して作ってきたことにより、全学年の子どもが交流しながら育てた花や野菜に愛情をもち、その生長を感じ、命の尊さに気づききっかけとなった。 ○ 保護者や地域の方の読み聞かせを多く重ねてきたことで、子どもたちは様々な感性に触れる機会となり、想像力や集中力も育ってきている。また、外国語での読み聞かせや祖母の参加もあり、来てくださった方々との交流を通して、言葉や世代を超えたつながりを感じ、親しみを持つことができた。
評価	子どもたちの「人権」を大切にしたい保育実践に取り組むため、会議の持ち方を工夫し、全保育者が共通理解の上に取り組めるよう尽力している。具体的には、花や野菜の栽培など自然と触れ合える環境構成を大切に、子どもたちが命の尊さに気づけるようにしたり、保護者や祖母の絵本の「読み聞かせ」を通して様々な地域の人たちとの交流機会を設け、子どもたちに人とのつながりを体感できるようにしたり、着実に実践を重ねている。